

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20530804

研究課題名 (和文) 日独教師教育における学際的アプローチの比較研究—音楽とことばによる統合的文化理解

研究課題名 (英文) A comparative study on comprehensive approaches in teacher education between Japan and German speaking area - Integrative cultural understanding through music and languages

研究代表者

中地 雅之 (NAKAJI MASAYUKI)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：30250640

研究分野：音楽教育学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：(1) 音楽教育 (2) 教師教育 (3) ドイツ語圏 (4) ことば (5) 文化理解
(6) 学際的アプローチ (7) 比較研究 (8) 即興表現

1. 研究計画の概要

本研究は、学際的アプローチによって＜自文化＞と＜異文化＞の理解を深化させる、教師教育の実践的カリキュラム開発を目的とする。ここでは、＜自文化＞および＜異文化＞の理解の中核に＜音楽＞を位置づけ、その文化理解の範囲を諸芸術へと拡張していく教師教育の実践モデルを開発する。

ここでは、その論拠にドイツ語圏の代表的な芸術教育コンセプトとして位置づけられる、Wolfgang Roscher が提唱した＜多元美学教育 Polyästhetische Erziehung＞の一部門、＜統合的音楽教育論 Integrative Musikpädagogik＞を批判的に検討し、ドイツ語圏におけるフィールドワークを平行しながら、日本における具体的な実践モデルの開発に取り組む。

2. 研究の進捗状況

平成 22 年度までの研究において、＜生産的教授法 Produktionsdidaktik＞の視点から、＜音楽＞と＜ことば＞との統合的文化理解の実践モデルを開発した。即ち、＜ことば Sprache＞と＜音楽 Musik＞という表現の素材を、＜受容 Rezeption＞＜解釈 Interpretation＞＜転換 Trans-formation＞＜生産 Produktion＞＜表現 Praesentation＞＜省察 Reflexion＞の 6 つの学習活動を循環させる、らせん型の教授モデルを提示した。

本モデルの構築に関して、平成 20 年 9 月、12 月、平成 21 年 9 月、平成 22 年 5 月にザルツブルグモーツァルテウム音楽大学にて、国

際統合的音楽教育学会 Internationale Gesellschaft für Poly-ästhetische Erziehung (IGPE) の文献資料を精査し、同学会に所属する各国の研究者からのレビューを受けた。

また平成 20 年 11 月、平成 22 年 2 月、平成 23 年 2 月には、東京学芸大学において本研究に関連する国際セミナーを実施し、研究の内容を広く公表するとともに、国内の研究者からのレビューを受けた。

本研究の実践的側面に関しては、日本音楽教育学会における平成 21、22 年度のプロジェクト研究において、本モデルを応用して 4 名の若手現職教師の実践研究を統括・実施し、広島大学、埼玉大学で開催された全国大会で発表した。また、平成 20 年 12 月にザルツブルグ・モーツァルテウム大学の大学院生を対象に、平成 23 年 3 月の国際統合的音楽教育学会のシンポジウムにおいてザルツブルグのギムナジウムの生徒を対象に、それぞれワークショップを行い、本モデルに基づいた多元美学的即興表現に関する教育実践を行った。

なお、本モデルを含めた平成 21 年度までの研究内容の一部を、ザルツブルグモーツァルテウム音楽大学に提出し受理された博士論文に掲載した。また本研究に関連し、ことばと音楽を関連させた統合的文化理解の具体的実践への教材を開発し、書籍と CD という形で出版・公表した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

3年間の研究において、日本における3回の国際セミナーを実施した。国内学会における2回の研究発表、オーストリアザルツブルグにおける2回の研究発表を行っており、研究計画を順調に進行させ、当初の目標を達成している。

4. 今後の研究の推進方策

今後2年間は、これまでに構築された実践モデルを<生産的=受容的教授法>モデルとして再検討し、さらに日本およびドイツ語圏における教育実践を試行し省察する。

平成23年11月および平成24年4月に東京学芸大学において、平成24年ザルツブルグにて国際セミナーを計画している。

教材開発としては、国内外の民話を素材とした劇遊びの脚本と音楽を作成しており、平成23年10月に出版公表の予定である。また、平成23年7月に、ミュンヘン音楽大学教授 Wolfgang Mastnak 博士らの協力を得て、日本の民話に基づいた音楽作品を作曲し、ドイツの小学生を対象に受容的教授法の視点を有した実践を行う予定である。

なお、平成24年には、本研究の内容を集約した報告書を作成する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 中地雅之、石井ゆきこ、島田沙苗、渋谷創平、松岡仁、宇都明香「現代音楽のゆくえと音楽教育(2) II ドイツ語圏の教材と日本における実践の可能性」『音楽教育学』第40巻第2号(音楽教育学会、2010年) pp. 42-47

② 中地雅之「現代音楽のゆくえと音楽教育(1) ドイツ語圏の音楽教育における<現代音楽>へのアプローチ」『音楽教育学』第39巻第2号(音楽教育学会、2009年) pp. 60-63

[学会発表] (計3件)

① Masayuki NAKAJI: Polyaesthetische Werkstatt - Improvisation nach japanischem Maerchen. bei 22. Smposition der Internationale Gesellschaft fuer Poly-aesthetische Erziehung (IGPE). an Bundesoberstufenrealgymnasium, Salzburg, Maerz 2011.

② 中地雅之、石井ゆきこ、島田沙苗、渋谷創平、松岡仁、宇都明香「現代音楽のゆくえ

と音楽教育(2) II ドイツ語圏の教材と日本における実践の可能性」『音楽教育学』第40巻第2号(音楽教育学会、2010年) pp. 42-47

③ 中地雅之「現代音楽のゆくえと音楽教育(1) ドイツ語圏の音楽教育における<現代音楽>へのアプローチ」『音楽教育学』第39巻第2号(音楽教育学会、2009年) pp. 60-63

[図書] (計1件)

① 秋田桂子、中地雅之『3・4・5歳児の劇遊び 脚本&CD』(ひかりのくに、2009年) 全112頁、CD 97トラック

[その他]

博士論文(ザルツブルグモーツアルテウム大学提出 2010年5月) 全420頁

・ Masayuki NAKAJI: Moeglichkeiten des Einsatzes polyaesthetischer Modelle in der japanischen Lehrerausbildung und Lhererfortbildung. Improvisation als Realisation Integrativer Musikpaedagogik. Dissertation Universitaet Mozarteum Salzburg 2010. 420 Seiten